

## 港区教育委員会教育長賞

### 地球を救う

赤羽小学校 小原 里菜

地球温暖化という言葉を耳にすると、地球が「助けて」と悲鳴をあげているかのように思える。地球温暖化により、私達の住む地球は大きな危機にさらされている。異常気象や海水面の上昇、自然災害の増加、食糧事情の問題など、人間社会にも深刻な影響を及ぼしている。二酸化炭素が原因で起こる地球温暖化に対し、私達は何か出来ないのだろうか。

私は、今年の六月から八月までの三か月間、この二酸化炭素について調べてみた。私達の日常生活では、必ず二酸化炭素を排出している。部屋にいと、電気やガス、水というエネルギーを使用している。外出や買い物、食事においてもエネルギーを使用している。約二十個の項目を作り、二酸化炭素を減らす生活について調べた。

電気をこまめに消す、エアコンの温度を調整する、水を出しっぱなしにしない、冷蔵庫の開け閉めを短時間にするなど、生活の細かな部分まで調べた。完璧に出来ていることもあったが、中には全く出来ていないこともあった。例えば、夏場で冷凍庫にアイスや氷を詰めすぎたり、汗をかくと何度もシャワーを浴びたり、エアコンを長時間使用したりしたことがあった。反省し、来年の夏は同じことを繰り返さないようにしたい。

調べた中で、特にこれからも実行したいことはゴミの量の削減である。買い物の際は、必ずエコバックを持っていくようにしている。ゴミを分別し、自治体の決まり通り捨てている。しかし、可愛いから、新しい商品だからという理由で、文房具や洋服を買うのは控えなければならない。常に「もったいない」という意識が大切になると思う。鉛筆や消しゴムは使えなくなるまで使う、壊れてしまったものはすぐに捨てず修理してみる、入らなくなった洋服は直すかリサイクルに出す。そして、新たに買う前には、本当に必要なものなのかをもう一度考えなければならぬ。ゴミを減らすことは、簡単なことではなく、とても難しいことだ。私達の意識から変えていかなければ進まないのだ。

私は二酸化炭素排出量を減らす取り組みをして、一人一人の心がけが必要だと学んだ。面倒だ、面白くないと思うと取り組みなくなってしまう。しかし、環境をより良くしよう、将来に緑豊かな自然を残したいという気持ちがあれば、

今の行動が変わってくると思う。

私達の取り組みは小さな一歩かもしれないが、たくさんの人々が行うことで大きな力となるだろう。地球温暖化を防ぎ、今世界中で起こっている環境の問題が、少しでも減ることを願っている。

私自身、まだまだ努力が足りないと思う。毎日の生活で工夫していきたい。「どのようにすれば環境に優しくなるか」「何が環境を守ることにつながるのか」ということを常に考え、実践していきたい。

#### 講評

この作品は、現在、全世界で起こっている、さまざまな事象から、「悲痛な地球の叫び」を感じた、一人の少女が、「自分が人間として何が出来るか？」を、自らの目や身体で、三か月間、日常詳細に調査したものから得た文章であり、誠に小学生らしく、素直に自分の考えを訴えた秀逸の作品である。